

Loc. Minakami-ike de Nara (Fukushima, 19, IX, 1945, no. 142-Très rare).

12. *Cosmarium vexatum* W. West, forma, W. & G. S. West, Monogr. 3:188, pl. 92, f. 4 (1908).

Long. 30μ , larg. 25μ , isume 9μ . (fig. 7).

Loc. Réservoir Yamaguchi de Saitama Pref. (Fukushima 30, V, 1950, no. 1617-rare).

○ラシヤナス渡來に關する考察 (佐野純雄) Sumio SANO: How *Solanum elaeagnifolium* Cav. came over to Port Nagaura, Japan.

昭和 25 年 9 月下旬, 神奈川縣横須賀長浦港にある東京灣倉庫會社所在地の海岸で *Solanum elaeagnifolium* Cav. ラシヤナス 8 株を發見しました。この植物は北米テキサス地方を中心とするもので、いままでわが國では發見されたことのないものでありますから一應報告しておきたいと存じます。場所は神奈川縣横須賀長浦港東京灣倉庫會社の海岸で数は 8 株(内 1 株は根元で 2cm 程離れて 2 本生えているのがありますがこれが、もし各別個の株であれば 9 株となります)。この草が、この場所に生えたのは外國からの輸入貨物に附いて、種子がもたらされたものであろうことは推察に難くありません。此處はもと荷役が行われた場所であります。それではどんな貨物がこれをもたらしたでせうか。昭和 24 年 1 月から昭和 25 年 1 月に至る期間に、此の所で荷揚げされた輸入品をしらべてみますと貨物の内、種子の混在又は附着の最可能性が考えられるのは、棉花でないかと思ひます。この草の原産地テキサスやメキシコは棉花が栽培されること、原棉は精選調製が充分でないことなど、大いにその可能性が推察できます。

みつかつた 8 株の生え方を見ると、突堤の下方斜面の石垣に、突堤の腰に副つて、ほぼ一線に生えています。これは荷役中突堤の頂面に落ちた種子が、雨で流れて、下の石垣に落ち、そこに發芽したものではないでせうか。風で飛んだものも勿論ありませう。

それにしても、縦長約 37 米のところ、に 8 株も生えたというのはどういふわけでせう。これは單に種子の粒が附いて來たのではなく、實か、實の一部が荷物にこびりついて來て、それが此處に落ちて散布したのか、或いは昨年既に一株生えて、その實から、今年これだけ繁殖したものでせうか。それであつたらもう少しと所にかたまつていそうにも思われますが、少し散布が廣くはないでせうか。このことについてはもう少し來年の状況を觀察したいと考えます。

次にこの草の形狀を記載して見ませう。

半灌木狀の多年生草本で、高さ 85cm に及ぶ。全株星狀の細毛を以て被わるゝため帶白色を呈している。幹は直立し圓柱形で細く、下方には黃赤褐色の細い直刺を散生す。

る。枝條は上向し、その末はやゝ之曲する。葉は互生し、葉柄は 1cm 許、葉身は線狀披針形で波狀縁をなし先端鈍く尖り、長さ 6-7cm 幅 1cm 許、葉質は厚く、葉脈は葉の上面において凹陷し葉の背面においては中脈と共に隆起する。葉裏を被える毛は帶白に見えるが葉の上面の毛はやゝ淡黄褐色を帯びている。夏秋の候に花がある。花序は梢枝に生じ、3-4 花より成る聚繖花をなし、花梗及び小花梗はやゝ細めで萼と共に星狀の細毛を被わり且つ往々小刺を疎生する。萼筒は倒圓錐形で5稜を有し、萼片は線形、鈍頭にして互に相離在し萼片間の彎入はその底部ほとんど截形をなしている。花冠は淡紫色、徑 2-2.5cm 裂片は鋭尖三角形で背面には星狀の細毛を布き、花時平開乃至反捲する。藥は聚合し大形で線形をなし先端漸尖し深黄褐色で平滑、花柱は藥より超出する。子房は星狀の毛に包まれている。果實は長い小果梗によつて下向し扁球形で徑 1-1.5cm 無毛平滑、はじめ緑と白との條斑を現わし熟すれば黄色乃至暗黄色を呈するが、私の觀察したものはやゝ黄色を帯びたのみで十分成熟するに至らずして止んだ。



この草の種類の檢定や記載文には久内清孝・靱山泰一兩氏の御厄介になりました。和名も新たにつけていただいたものであります。茲に兩氏に對し厚く御禮を申上げる次第です。なほ私の標本は靱山氏を通じ東大理學部に收藏されることになりました。

(筆者は東京灣倉庫會社々員)

Solanum elaeagnifolium Cav. is found in 1950 on the warehouse wharf of Tokyowan Warehouse Co. Ltd. at Port Nagaura near Yokosuka, Japan. It is considered that the fruits or seeds of this plant came over the sea with the American raw cotton and migrated there.

お知らせ。宮崎縣日南市の財團法人服部植物研究所では最初同所報告第5號 (pp. 97 pls. 7. ¥165+18) を出版した。内容には小林義雄：日本産發光菌類への寄與；野口彰：イタチゴケ及びメリスゴケ亞族の蘚類 (4)；蘚苔類小記 (2)；服部新佐：屋久島苔類誌 (5)；日本産苔類の油體 (1) がのせてある。希望の方には上記の値段で早速送つてくれる。なお同報告1號からのバックナンバーの外にコケのエキシカータ (各々¥85+35) 蘚類 No.1~4、苔類 No.1~3、淡水藻類 No.1~2 (各々¥500+18) も殘部があるので頒かつことが出来る由。